

輪島漆芸美術館

この美術館は、輪島や、日本の他の漆器産地の作品、また外国の例を通して、漆器の歴史を探究しています。最高の木を選ぶところから、仕上げの装飾を加えるところまで、漆器作りの過程を説明した動画があります。訪れた人は、実際に漆の木（学名： *Toxicodendron vernicifluum*）を見ることができます。漆の木の樹液は、幹に傷をつけて集められ、それを加熱・精製して漆を作ります。芸術家や職人にとって、漆は多くの用途に使える材料です。漆は、形や面を作るために塗り重ねることができ塗料として、また装飾効果のための接着剤としての役目を果たします。現代の日本および世界中の漆芸家による作品の常設展示は、3,000 年を超える期間使われてきた素材の可能性を示しています。

常設展示されている現代の漆器にはグランドピアノや地球儀などがあり、両方とも「沈金」や「蒔絵」という技法を使って金で飾られています。沈金では、鋭い金属の道具で漆器に細い線を彫った後、それを金箔で埋めます。蒔絵という技法は、漆を接着剤として使います。木地に漆を塗り、漆が乾く前に金粉や銀粉を蒔きます。金粉や銀粉の粒子の大きさは、求める効果によって変えることができます。蒔絵の装飾を守るため、透明で光沢度の高い漆を最後に塗ります。

この美術館は、毎日午前 9 時から午後 5 時まで開館しています。